

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--------------------------------|--|-----|---|---|
| 国語・ 現代の国語 | 1年 | 2 | 現代の国語 (東京書籍) | 三訂版TOP2500(いいずな書店) 新訂版最新国語便覧 (浜島書店) 基本の現代文 (尚文出版) |
| 科目の概要 と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを上げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 本を紹介する【話す・聞く】 | | | 話の構成や、紹介の仕方を工夫して話すことができる。 | |
| 「木を見る、森を見る」【読む】 | | | タイトルや具体例に注意して主張を捉え、物事を多様な視点から見ることができる。 | |
| 「水の東西」【読む】 | | | 「水」を巡る日本と西洋の文化の比較を通じて、日本文化の特質について理解を深める。 | |
| 手順を整理して正確に伝える【書く】 | | | 情報をわかりやすく整理し、表現を検討して手順書を書くことができる。 | |
| 「技術が道徳を代行するとき」【読む】 | | | 論の展開に注意して評論を読み、技術の発達と道徳的な判断力の関係について理解できる。 | |
| 『身銭』を切るコミュニケーション【読む】 | | | 筆者独自の表現や具体例の働きに注意して読み、コミュニケーションのあり方について考えることができる。 | |
| 新聞記事をもとに問いを作り、意見をまとめる【書く】 | | | 読んだ文章から問いを作り構成を工夫して意見をまとめることができる。 | |
| 発想を広げて課題を見つける【話す・聞く】 | | | 発想を広げてアイデアを整理し、的確に伝えることができる。 | |
| 「広告の形而上学」【読む】 | | | 比喩に注意して、広告の奇妙さについて書かれた評論を読み、現代社会の特質について考えることができる。 | |
| 「時間と自由の関係について」【読む】 | | | 時間と自由の関係についての筆者の主張を的確に読み取り、その内容を要約することができる。 | |
| 調べた情報を説明資料にまとめる【書く】 | | | 情報の信頼性を吟味し、伝える相手や目的に応じてまとめることができる。 | |
| 異なる主張の文章を読み比べて自分の意見を書く【書く】 | | | 読み比べて考えを明確にし、伝わりやすい構成で書くことができる。 | |
| メディアを適切に使い分けながら、情報を収集する【話す・聞く】 | | | 情報を集めて整理し、考えを深めることができる。 | |
| 情報を整理しながら話し合う【話す・聞く】 | | | 話し合いの進め方を工夫し、考えを深めることができる。 | |
| 「生物の多様性とは何か」【読む】 | | | 生物多様性について書かれた評論を読み、ヒトが自ら守るべき「分際」について考えを深めることができる。 | |
| 「(私)時代のデモクラシー」【読む】 | | | 〈私〉が尊重される現代社会におけるデモクラシーが抱える課題を理解し、視野を広げる。 | |
| 探究したことを発信する【話す・聞く】 | | | 発表の仕方や、話の聞き方を工夫することができる。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|------------------------------------|--|-----|---|---|
| 国語・言語文化 | 1年 | 2 | 精選言語文化 (東京書籍) | 体系古典文法(数研出版) 漢文必携(桐原書店) 最新国語便覧(浜島書店) 基本の古典(尚文出版) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 随筆「言葉を届ける」 | | | 恋愛をテーマに詠まれた短歌とそれに対する筆者の見解に注意して、随筆を読み味わうことができる。 | |
| 古文入門 「児のそら寝」「絵仏師良秀」 | | | 歴史的仮名遣いについて理解し、説話のおもしろさを読み取ることができる。 文語の活用について理解し、叙述を基に人物像を読み取ることができる。 | |
| 古文入門「大江山の歌」 | | | 文語のきまりに注意しながら、登場人物の言動と和歌の内容を読み取ることができる。 | |
| 漢文入門「訓読の基本」 | | | 漢文の特色を知り、訓読のきまりを理解することができる。 | |
| 故事成語「矛盾」「推敲」 | | | 故事成語の元になった話を読むことを通して、漢文の読解に慣れ親しむことができる。 | |
| 随筆「徒然草」 | | | 随筆に表れた作者の考えを、叙述を基に的確に捉えることができる。 | |
| 歌物語「伊勢物語」 | | | 歌物語に描かれている内容を、叙述を基に的確に捉えることができる。 | |
| 小説「羅生門」 | | | 極限状態にある登場人物の心情の変化を、場面の展開に即して読み取り、主題について考えることができる。 | |
| 和歌 「万葉集」「古今和歌集」 「新古今和歌集」 | | | 表現の特色に注意しながら、和歌の内容を読み取ることができる。 | |
| 短歌を作る | | | 自分の感じたことや伝えたいメッセージなどを、古典的技法に倣って短歌にし、効果的に書くことができる。 | |
| 詩文 「絶句と律詩」 | | | 漢詩に描かれている情景や心情を読み取り、優れた表現に親しむことができる。 | |
| 詩歌 「秋の航一俳句抄」 「小景異情」「一つのメルヘン」 | | | 俳句独自の特徴と表現効果を理解し、想像力を働かせて句の主題を読み取る。 リズムや形式に注意して詩を読み味わい、「ふるさと」に対する作者の心情について考えることができる。 幻想的なイメージを味わい、作者の心情について考えることができる。 | |
| 軍記物語「平家物語」 | | | 軍記物語特有の表現に注目しながら、登場人物の描かれ方を読み取ることができる。 | |
| 史話「臥薪嘗胆」 | | | 話の展開や登場人物の言動を読み取り、史話のおもしろさを味わう。 | |
| 作品を読み比べる 「桜に関する作品を読み比べる」 | | | 言葉の変化についての解説を読み、言語文化への視野を広げることができる。 | |
| 古文の広がり 「昔の犬は何と鳴く」 | | | 言葉の変化についての解説を読み、言語文化への視野を広げることができる。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|---|--|---|--|
| 地理歴史・ 地理総合 | 2年 | 2 | 高等学校 新地理総合 (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院) | 新詳地理資料 COMPLETE (帝国書院) 新地理要点ノート (啓隆社) |
| 科目の概要 と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・現代世界の地理的事象についての基本的な事柄や追究の方法を理解させる。 ・現代世界の地理的事象に対し課題意識を高め、国際社会に主体的に生きる態度を養う。 ・現代世界の課題を系統地理的、地誌的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断する態度を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達度目標 | | |
| 第1部地図でとらえる現代世界 第1章地図と地理情報システム 第2章結び付きを深める現代世界 | | 現代世界のさまざまな地理情報について、地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付ける。 | | |
| 第2部国際理解と国際協力 第1章生活文化の多様性と国際理解 ・世界の地形と人々の生活 | | 大地形や各種の地形の基本的な内容について系統地理的な視点や方法で理解する。 地形の地域的な差違や類似性を、分布やまとまりなどを通して理解し、人間生活との関係について考察する。 地図や写真を活用し、理解したことを地図や写真を使って指摘・表現できるようにする。 | | |
| ・世界の気候と人々の生活 | | 世界の気候について、ケッペンの気候区分を踏まえ、系統地理的な視点や方法で理解する。 気候の地域的な差違や類似性を、分布やまとまりなどを通して理解し、人間生活との関係について考察する。 植生・土壌の基本的な内容について、気候との関連性を踏まえ、系統地理的な視点や方法で理解する。 日本の自然と特徴を、系統地理的な視点や方法で理解する。 | | |
| ・世界の言語・宗教と人々の生活 ・歴史的背景と人々の生活 ・世界の産業と人々の生活 | | 世界における言語や宗教の広がりについて理解する。 産業の発展は、人々の生活にどのような影響を与えてきたのか。また、産業のグローバル化によって、人々の生活はどのように変化してきたのか理解する。 | | |
| 第2章結びつきを深める現代世界 | | 世界各地で見られる地球環境問題、資源・エネルギー問題、人口・食料問題及び居住・都市問題などを基に、地球的課題の各地で共通する傾向性や課題相互の関連性などについて大観し理解する。 | | |
| 第3部持続可能な地域づくりと私たち 第1章自然環境と防災 | | 世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。 さまざまな自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。 | | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|------------------------|--|-------|-------------------|---------------------------------------|
| 地理歴史・ 歴史総合 | 3年 | 2 | 詳述 歴史総合 (実教出版) | 新詳歴史総合 (浜島書店) 詳述 歴史総合 マイノート (実教出版) |
| 科目の概要 と目標 | <p>1. 近現代史を中心とする世界と日本の歴史を、諸資料に基づき地理的条件と関連付けながら理解させる。</p> <p>2. 現代の諸課題を歴史的観点から考察させることによって、歴史的思考力を培う。</p> <p>3. 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。</p> | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達度目標 | | |
| 第1章 近代化への胎動 | アジア諸帝国の繁栄理由を知る。 | | | |
| 第2章 欧米の市民革命と国民国家の形成 | ヨーロッパ諸国がアジア域内交易に参加した経緯とその影響について理解する。 産業革命とその影響、アメリカ独立革命とフランス革命の類似点と相似点を考察する。 19世紀のヨーロッパ諸国の動向をアジアとの関わりの中で考察する。 | | | |
| 第3章 アジアの変容と日本の近代化 | 明治維新とその諸改革の中で、日本「国民」がどのように創出されてきたかを考察する。 諸改革がどのような国際情勢の中で生まれたのかを理解する。 立憲体制の成立過程を理解する。 | | | |
| 第4章 帝国主義の時代 | 東アジアの国際関係における日本の動向を理解する。 産業革命と教育の普及がもたらしたものを理解する。 西欧列強の動きを考察し、アジア・アフリカの動きを理解する。 | | | |
| 第5章 第一次世界大戦と大衆社会 | 第一次世界大戦の前後における国際秩序の変化を理解する。 大衆消費社会の成立とその特質を理解する。 大正デモクラシーが日本にもたらした影響を理解する。 | | | |
| 第6章 経済危機と第二次世界大戦 | 世界恐慌の要因とその影響を考察する。 第二次世界大戦の経過と惨禍を学び、戦後の国際関係について理解する。 | | | |
| 第7章 冷戦と脱植民地化 | 東側、西側陣営とアジア・アフリカ諸国の動向を理解する。 占領下の日本における諸改革を学び、戦後の日本社会についての理解を深める。 戦後の集団防衛体制の成立とその影響を理解する。 | | | |
| 第8章 多極化する世界 | 冷戦の終結と国際情勢について考察する。 開発途上国の民主化過程を理解する。 | | | |
| 第9章 グローバル化と現代世界 | めまぐるしく変わる国際社会の中で、日本が世界とどのような関係を築いているのかを理解する。 地域紛争やテロ、難民に対する排外主義、人権、自然環境、情報科などの諸問題に対して、どのように向き合っていけばよいかを考える。 | | | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|--|-----|--|----------------------------------|
| 公民・公共 | 1年 | 2 | 高等学校 公共 (第一学習社) | 最新公共資料集 (第一学習社) 公共ノート (第一学習社) |
| 科目の概要と目標 | 人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、公共的な空間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 公共の扉 ①公共的な空間をつくる私たち ②公共的な空間における人間としての在り方生き方 ③公共的な空間における基本的人権 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・青年期の意義や青年期の心理について、それらがどのようなものかを理解し、自分自身の問題として考えることができる。 ・公共的な空間とは何かについて思考を深め、その空間が多様性にあふれていることを知り、社会的包摂の重要性を理解する。 | |
| 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち (1) ①法の規範の意義と役割 ②契約と消費者の権利・責任 ③司法参加の意義 ④政治参加と公正な世論の形成 ⑤国際社会と国家主権 ⑥日本の安全保障と防衛 ⑦国際社会の変化と日本の役割 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・基本的人権が保障されるにいたった経緯を理解する。 ・世界のおもな政治体制について、真の民主政治の実現と関連させて考察する。 ・日本国憲法の三つの基本原理について理解する。 ・日本国憲法の平和主義の特色を理解し、平和主義と日本の安全保障について学ぶ。 ・自由権・社会権・新しい人権とは何かを学ぶ。 ・国会の地位と構成、権限について理解する。 ・議院内閣制のしくみ、内閣総理大臣の権限、行政の民主化について理解する。 ・裁判所の役割や裁判制度、国会の地位と構成について理解する。 ・地方自治に住民はどのような権利をもっているか、また、地方自治のもつ課題について考察する。 ・政党の役割、選挙のしくみ、世論の形成について理解する。 ・戦後の国際社会と冷戦終結前後の状況について理解する。 ・国際法の意義と役割について理解する。 ・国境と領土問題や日本の領土問題について理解する。 ・人種・民族紛争の実態、難民問題について理解する。 ・国際連合の役割と課題について理解する。 ・核兵器の問題について理解する。 ・国際社会における日本の役割や、国際社会の一員として何をすべきかを理解する。 | |
| 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち (2) ①雇用と労働問題 ②社会の変化と職業観 ③市場経済の機能と限界 ④金融の働き ⑤財政の役割と社会保障 ⑥経済のグローバル化 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解する。 ・企業・家計・政府はどのような活動をしているか理解する。 ・企業の活動、株式会社の特徴について理解する。 ・市場経済のしくみについて理解する。 ・価格機構のはたらきについて理解する。 ・国民所得について理解する。 ・景気変動について理解する。 ・経済成長は生活にどのような変化を与えるかを理解する。 ・財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について理解する。 ・金融機関の役割、日本銀行の役割について理解する。 ・産業構造の変化について理解する。 ・雇用事情の変化とさまざまな労働問題について理解する。 ・社会保障の意義を理解し、現代の社会保障の課題について考察する。 ・貿易の意義、円高・円安の生じる理由、経済のグローバル化について考える。 ・円高・円安のしくみについて、身近な事例をもとにレポートを作成するなど、適切に表現する。 ・貿易の拡大とそれにもなう貿易摩擦について理解する。 ・南北問題の発生した原因について考え、発展途上国のかかえている問題について理解する。 | |
| 持続可能な社会づくりの主体となる私たち ①地球環境問題 ②資源・エネルギー問題 ③生命倫理 ④情報 ⑤国際社会の課題 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・国際協力のあり方、国際経済の中での日本の役割について考える。 ・生命、環境、家族、地域社会、情報社会、文化と宗教、国際平和と人類の福祉などにおける倫理的課題について考察し、公共的な空間で生きる人間としてのあり方や生き方についての自覚を深める。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|--|-----|----------------|---|
| 数学・ 数学 I | 1年 | 4 | 最新 数学 I (数研出版) | 新課程教科書傍用 3 ROUND 数学 I + A (数研出版) 新課程 チャート式 基礎と演習 数学 I + A (数研出版) |
| 科目の概要 と目標 | 数と式、集合と命題、2次関数、図形と計量及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 第1章 数と式 第1節 数と式 第2節 実数 第3節 1次不等式 | <ul style="list-style-type: none"> ・文字を含む式の表し方や見方を理解する。 ・公式の導き方や適用の仕方を理解する。 ・数を実数まで拡張することの意義を理解する。 ・1次不等式について理解を深め、それらが活用できる。 | | | |
| 第2章 集合と命題 | <ul style="list-style-type: none"> ・集合の意味や表し方、包含関係について理解する。 ・集合の包含関係と関連づけて命題を理解する。 | | | |
| 第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次方程式と2次不等式 | <ul style="list-style-type: none"> ・関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識する。 ・平方完成やグラフの平行移動に着目することにより、いろいろな2次関数のグラフがかけられる。 ・2次関数のグラフを利用することにより、基本的な最大最小問題を解くことができる。 ・与えられた条件から2次関数を決定することができる。 ・グラフを利用して2次不等式を解くことができる。 | | | |
| 第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 正弦定理・余弦定理 | <ul style="list-style-type: none"> ・直角三角形における三角比の意味を理解する。 ・鈍角まで拡張された三角比の基本的な性質について理解する。 ・正弦定理、余弦定理の図形的な意味を理解し、それらを利用して、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 ・三角比の考えを具体的な事象の考察に活用できる。 | | | |
| 第5章 データの分析 | <ul style="list-style-type: none"> ・四分位偏差、分散、標準偏差などの意味を理解し、それらを用いてデータの傾向を把握できる。 ・散布図や相関係数の意味を理解する。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解する | | | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|--|--|----------------|---------------------------|
| 理科・ 化学基礎 | 1年 | 2 | 化学基礎 (実教出版) | ベストフィット化学基礎 新課程 (実教出版) |
| 科目の概要 と目標 | <ul style="list-style-type: none"> 物質の構成粒子とそれが構成する物質、および、物質が様々な変化をして他の物質をつくることを理解できるようにする。 物質についての基本的な粒子概念、原理、法則などを、身近な物質や現象を通して理解し生活に関連した科学的自然観や思考力を育成する。 | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達度目標 | | |
| 物質の構成 | | 物質の種類と性質について学び、化学を学ぶことに意欲をもつ。 | | |
| 物質の構成粒子 原子 イオン 周期表 | | 物質が原子、イオン、分子から構成されていること、構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。 | | |
| 粒子の結合 イオン結合 共有結合 金属結合 | | <p>イオンの生成を電子配置と関連付けて理解し、イオン結合及びイオン結合からなる物質の性質を理解する。</p> <p>共有結合を電子配置と関連付けて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。</p> <p>金属原子間の結合及び金属からなる物質の性質を理解する。</p> | | |
| 物質量と化学反応式 原子量と分子量・式量・物質質量 溶液の濃度、化学反応式 基本法則に関連した化学史 | | <p>原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項、物質量と溶液の濃度の関係を理解する。</p> <p>化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。</p> | | |
| 酸と塩基の反応 酸と塩基 水素イオン濃度と pH 中和反応と塩と中和滴定 | | <p>水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及びpHについて理解する。</p> <p>酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。</p> <p>中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。</p> | | |
| 酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤 酸化還元反応の起こりやすさ 身の回りの酸化還元反応 | | <p>酸化・還元の定義を理解し、酸化還元反応が電子の授受によることを理解する。</p> <p>酸化剤と還元剤の反応と実用電池の形成の関係を理解する。</p> <p>酸化還元反応と日常生活や社会生活との関わりについて理解する。</p> | | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-----------------------|---|-----|--|--------------------|
| 理科・物理基礎 | 2年 | 2 | 物理基礎 (数研出版) | プロGRESS物理基礎 (数研出版) |
| 科目の概要と目標 | 日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 物体の運動とエネルギー 運動の表し方 | | | <ul style="list-style-type: none"> 物体の運動の表し方について、直線運動を中心に理解する。物体が直線運動する場合の加速度を理解する。 | |
| さまざまな力とそのはたらき | | | <ul style="list-style-type: none"> 物体に働く様々な力について理解し、それらのつり合いについて理解する。 運動の三法則を理解する。 | |
| 力学的エネルギー | | | <ul style="list-style-type: none"> 力学的エネルギーについて理解し、仕事と力学的エネルギーの関係を理解する。 | |
| さまざまな物理現象とエネルギー利用 | | | <ul style="list-style-type: none"> 熱運動の視点をもつこと。熱の移動および熱と仕事の変換について理解する。 | |
| 熱 | | | | |
| 波 | | | <ul style="list-style-type: none"> 波の性質を理解する。音波(弦の振動を含む)の性質を理解する。 | |
| 電気 | | | <ul style="list-style-type: none"> 物質によって抵抗率が異なることを理解する。交流の発生、送電および利用について、基本的な仕組みを理解する。 | |
| エネルギーとその利用 | | | <ul style="list-style-type: none"> 水力、化石燃料、原子力、太陽光などを源とするエネルギーの特性や利用について、物理学的な視点から理解する。 | |
| 物理学が拓く世界 | | | <ul style="list-style-type: none"> 物理基礎で学んだ事柄が、日常生活やそれを支えている科学技術と結びついていることを理解する。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|------------------|---|--|---------------------|--|
| 理科・ 生物基礎 | 2年 | 2 | 高等学校 生物基礎 (数研出版) | リードLightノート生物基礎 (数研出版) セミナー生物基礎 (第一学習社) スクエア最新図説生物 (第一学習社) |
| 科目の概要と 目標 | <p>生物や環境における事物・現象に関わり、科学的な見方・考え方を身につける。 見通しをもって観察、実験などを行うことを通して、探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。 生物の構造やそのはたらきに関する基本的な構造やしぐみについて理解を深め、主体的に関わり科学的に探究しようとする態度を養う。</p> | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達度目標 | | |
| 序章. 生物基礎を学ぶにあたって | | 学習を進める探究のプロセスについて理解する。 顕微鏡の使い方を習得する。 | | |
| 1-1. 生物の多様性と共通性 | | 生物は多様でありながら、共通性をもっていることを理解する。生物の共通性と多様性は、生物の進化の結果であることを理解する。 | | |
| 1-2. エネルギーと代謝 | | 生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーはATPの形で供給されることを理解する。 | | |
| 1-3. 呼吸と光合成 | | 呼吸や光合成の過程でATPが合成されることと、酵素によって生体内で化学反応が進行することを理解する。 | | |
| 2-1. 遺伝情報とDNA | | DNAは二重らせん構造をしていることを理解する。遺伝情報はDNAの塩基配列にあることを理解する。 | | |
| 2-2. 遺伝情報の複製と分配 | | DNAの複製のしくみを理解する。細胞周期の進行に伴って、DNAが正確に複製され、2つの細胞に分配されることを理解する。 | | |
| 2-3. 遺伝情報の発現 | | タンパク質のアミノ酸配列は、DNAの塩基配列によって決まることを理解する。 同一な遺伝子をもつ細胞でも、発現している遺伝子が異なることを理解する。 | | |
| 3-1. 体内での情報伝達と調節 | | 自律神経系と内分泌系による情報伝達によって、からだの状態の調節が行われることを理解する。 | | |
| 3-2. 体内環境の維持のしくみ | | ホルモンと自律神経のはたらきによって、体内環境が維持されていることを理解する。 | | |
| 3-3. 免疫のはたらき | | 免疫と病気の関係や、免疫が医療に応用されていることについて理解する。 | | |
| 4-1. 植生と遷移 | | 植生の成りたちと、植生が時間の経過とともに移り変わっていくことを理解する。 | | |
| 4-2. 植生の分布とバイオーム | | 気候条件により、世界各地には、多様なバイオームが成立していることを理解する。 | | |
| 4-3. 生態系と生物の多様性 | | 生態系の成りたちと、生物の種多様性の維持について理解する。 | | |
| 4-4. 生態系のバランスと保全 | | 人間活動が生態系に及ぼす影響について理解する。生態系の保全の重要性について理解する。 | | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|--|--|--------------------|------------------------------|
| 芸術・音楽Ⅰ | 1年 | 2 | 高校生の音楽1 (教育芸術社) | 高校生のための音楽ノート 【改訂版】(カワイ出版) |
| 科目の概要と目標 | 音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成する | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達度目標 | | |
| 歌唱 <ul style="list-style-type: none"> 発声練習 「校歌」 「翼をください」 カンツォーネ 「Caro mio ben」 「野ばら」 (シューベルト / ウェルナー) | | <ul style="list-style-type: none"> 歌声の響かせ方に興味をもち歌唱活動に主体的に取り組んでいる。 旋律や対旋律の特徴、自身の声域を考えて歌唱パートを選び、二部合唱の楽しさを味わっている。 詩の内容や鼻濁音の歌い方をとらえイメージをもって歌っている。 イタリア語の特徴や歌い方を理解し、独唱にふさわしい表現を工夫して歌おうとしている。 2つの「野ばら」について学び、それぞれの作品の雰囲気やドイツ語の語感を味わって歌っている。 | | |
| 器楽 <ul style="list-style-type: none"> リコーダー ギター 箏 | | <ul style="list-style-type: none"> リコーダー奏法の特徴を理解し、少人数グループでのアンサンブルに取り組む、お互いに発表し合うことができる。 ギターの扱い方やTAB譜の見方を理解し、メロディーや伴奏の弾き方の基礎を身に付けることができる。 箏の奏法や縦譜の文化にふれ和楽器の響きや余韻の変化を味わう。 | | |
| 楽典 <ul style="list-style-type: none"> 楽譜の仕組み 拍子とリズム 音楽用語、記号 コードネーム | | <ul style="list-style-type: none"> 五線譜の仕組みや記譜の方法を理解する。 拍子やリズム、記号の意味を学び、その効果や働きを理解する。 三和音や7thコードの表記と構成音を理解する。 | | |
| 鑑賞 <ul style="list-style-type: none"> オーケストラの楽器 「動物の謝肉祭」 オペラ「椿姫」 交響曲「第九」 西洋音楽史 諸民族の音楽 | | <ul style="list-style-type: none"> 楽器の音色や特徴、音楽的效果に興味をもち鑑賞に取り組む。 登場キャラクターがどのように音楽で表現されているかをグループで話し合うことができる。 オペラならではの総合芸術としての表現を感受しようとしている。 音楽に込められた作曲家の思いについて考察する。 西洋音楽史の流れや変遷を学びながら、各時代の特徴や代表的な作曲家の作品にふれ、クラシック音楽の味わい方を学ぶ。 さまざまな国や地域の音楽に触れ、音楽的視野を広げる。 | | |
| 創作 <ul style="list-style-type: none"> 編曲や作曲 | | <ul style="list-style-type: none"> 創作や編曲をする楽しさを知り、イメージをもって創作している。 音楽を形作っている要素の理解を深める。 | | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|-------------------------|--|-------|----------------------|------|
| 芸術・美術 I | 1年 | 2 | 高校生の美術 1 (日本文教出版) | なし |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術の意義、美術作品の美しさを理解することができる。 ・制作の意図を明確にし、個性的で美しい表現しようとする事ができる。 ・制作に関する基礎的な知識や技法を理解し、表現に生かそうとすることができる。 ・表現・鑑賞に必要な知識を習得し、話し合ったり発表したりすることができる。 | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達度目標 | | |
| ○ 美術での取り組みについて (鑑賞) | <ul style="list-style-type: none"> ・美術作品を鑑賞し、込められた思いや作者の創作に対する姿勢について理解する。 ・1年間の学習の取り組みについて理解する。 | | | |
| ○素描 (静物デッサン) (絵画) | <ul style="list-style-type: none"> ・モチーフの形や色のおもしろさを観察しながら描く。 ・光と影の美しさ、素材の質感を感じながら描く。 ・デッサンの技法や構図について知る。 | | | |
| ○油彩 静物画 (絵画) | <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいを明確にし、自分なりの構想を立てる。 ・前回の素描からねらいを決め、構図を考えながらモチーフの下絵を描く。 ・油絵の下塗りでは寒色、または、暖色で全体のイメージを把握する。 ・赤、青、黄などの制限された色彩を用い、全体を大まかに把握する。 ・モチーフの美しさや全体の調和を考え描きこむ。 ・制作後の感想をまとめると共に、自他の作品を鑑賞し、話し合ったり、発表したりすることができる。 | | | |
| ○鑑賞 | | | | |
| ○平面構成 文字とデザイン (デザイン) | <ul style="list-style-type: none"> ・文字によるデザイン作品の楽しさについて知る。 ・参考作品等から、自由な発想を楽しむ。 ・文字の形やバランスを考え、レタリング・彩色する。 ・色彩から受けるイメージや配置を考え、平面構成する。 ・自他の作品を鑑賞し、制作の趣旨や構成要素の工夫について話し合ったり、発表したりすることができる。 | | | |
| ○鑑賞 | | | | |
| ○コンピュータグラフィック (デザイン) | <ul style="list-style-type: none"> ・インターネット利用のモラルやソフトの仕組みとその操作方法について理解する。 ・インターネット上の文字や図柄を集め、何度か配列を試し、自分なりの美しさを発見する。 ・色や形など主役を決め、配置・構成を工夫し作品を構成する。 ・自他の作品を鑑賞し、制作の趣旨や構成要素の工夫について話し合ったり、発表したりすることができる。 | | | |
| ○鑑賞 | | | | |
| ○人物画 (絵画) | <ul style="list-style-type: none"> ・人物画の鑑賞と表現方法について、作品・ビデオ教材を鑑賞しながら理解を深める。 ・対象を丁寧に見つめることで、人間の内面が表現できることを知る。 ・描きたい角度や表現したい表情を考え、クロッキーや鉛筆デッサンをする。 ・デッサンを参考にし、構図を考え下書きする。 ・描きたいイメージと画面全体のバランスや調和を考え彩色する。(必要に応じ、静物画と同様、色彩制限を行う。) ・立体感を感じさせるために面取り表現について知る。 ・背景の色彩が作品の仕上がりに影響することを知る。 ・自他の作品を鑑賞し、制作の趣旨や表現の工夫について話し合ったり、発表したりすることができる。 | | | |
| ○鑑賞 | | | | |

シラバス（看護科）

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|---|-----|--|------|
| 芸術・書道 I | 1年 | 2 | 書 I (光村図書出版) | なし |
| 科目の概要と目標 | 書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 漢字の書 ・漢字の成立 ・楷書の古典臨書 「孔子廟堂碑」「九成宮禮泉銘」 「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」 「牛橛造像記」 | | | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の成立や五書体について理解することができる。 楷書の基本的な運筆・用筆の技能を身に付けることができる。 古典の書体や書風を意識しながら、臨書の半紙作品を仕上げることができる。 | |
| 漢字の書 ・行書の古典臨書 「蘭亭序」「風信帖」 ・隸書や草書の古典臨書 「曹全碑」「真草千字文」 ・1～4字の漢字創作作品の制作 | | | <ul style="list-style-type: none"> 行書の基本的な運筆・用筆の技能を身に付けることができる。 古典の書体や書風を意識しながら、臨書の半紙作品を仕上げることができる。 さまざまな書体で書かれた漢字の古典を鑑賞し、それぞれの古典のよさや美しさを味わい、その表現方法について考えることができる。 古典臨書の活動を生かして、自分の書きたい漢字や言葉について表現方法を工夫しながら、創作作品を仕上げることができる。 | |
| 篆刻 ・姓名印の制作 | | | <ul style="list-style-type: none"> 篆刻作品を鑑賞し、よさや美しさを味わい、自分の作品に生かそうとすることができる。 篆書の特徴や書作品における印の役割について理解し、姓名印の印稿を作ることができる。 | |
| 仮名の書 ・仮名の古筆臨書「蓬萊切」 ・いろは歌の練習 | | | <ul style="list-style-type: none"> 仮名の成立や仮名の字源について理解することができる。 仮名の名筆を鑑賞し、よさや美しさを味わったり、線質や字形の特徴について理解したりすることができる。 | |
| 仮名の書 ・散らし書き作品の制作 | | | <ul style="list-style-type: none"> 仮名の名筆を鑑賞し、よさや美しさを味わったり、線質や字形の特徴について理解したりすることができる。 名筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能を身に付け、散らし書きの作品を制作することができる。 | |
| 漢字仮名交じりの書 ・名筆や現代の作品の鑑賞 ・15字程度の漢字仮名交じり書作品の制作 | | | <ul style="list-style-type: none"> 漢字や仮名の書の学習を生かし、用具用材、運筆・用筆、紙面構成などの違いによる表現効果について考えることができる。 名筆や現代の書作品を鑑賞し、よさや美しさを味わったり、感想をまとめたりすることができる。 15字程度の漢字仮名交じりの文や詩などを選び、その表現方法について工夫した草稿を考えたり、納得のいく作品になるように練習に取り組んだりすることができる。 自分で選んだ言葉について表現方法や紙面構成等を工夫しながら、作品を仕上げることができる。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|--|-----|--|-------------------------|
| 保健体育・ 体育 | 1年 | 2 | 現代高等保健体育 (大修館) | アクティブ・スポーツ2024 (大修館) |
| 科目の概要 と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列等集団行動を正しく機敏に行うことができるようにする。 ・各スポーツの基礎運動を理解する。 ・各スポーツのルールを理解し、ゲームを展開できるようにする。 ・健康・安全に留意し、豊かなスポーツライフを実現できるようにする。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 集団行動 体づくり運動 スポーツテスト 陸上競技 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列等集団行動を正しく機敏に行う。 ・体を動かす楽しさや心地良さを味わうことができる。 ・自らの体力を知り、体づくり運動（体ほぐしの運動・体力を高める運動）に主体的に取り組むことができる。 ・走、跳、投の技術を高める。 | |
| 選択 球技 (ゴール型) ハンドボール バスケットボール (ネット型) テニス バレーボール バドミントン (ベースボール型) ソフトボール 武道 柔道 剣道 ダンス | | | <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ゲームが展開できる。 ・技を高め勝敗の楽しさを味わいながら試合ができる。 ・踊りを通して楽しさや喜びを味わい、発表できる。 | |
| 体育理論 スポーツの発祥と発展 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの意義や歴史、文化的特徴や現代スポーツを取り巻くさまざまな問題について理解する。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|---|-----|--|-------------------------|
| 保健体育・ 体育 | 2年 | 2 | 現代高等保健体育 (大修館) | アクティブ・スポーツ2023 (大修館) |
| 科目の概要 と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列等集団行動を正しく機敏に行うことができるようにする。 ・各スポーツの基礎運動を理解する。 ・各スポーツのルールを理解しゲームを展開していく中で、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。 ・健康・安全に留意し、豊かなスポーツライフを実現できるようにする。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 集団行動 体づくり運動 スポーツテスト 陸上競技 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列等集団行動を正しく機敏に行う。 ・体を動かす楽しさや心地良さを味わうことができる。 ・自らの体力を知り、体づくり運動（体ほぐしの運動・体力を高める運動）に主体的に取り組むことができる。 ・走、跳、投の技能を高める。 | |
| 選択 球技 (ゴール型) ハンドボール サッカー バスケットボール (ネット型) テニス バレーボール バドミントン (ベースボール型) ソフトボール 武道 柔道 剣道 ダンス | | | <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ゲームが展開できる。 ・技を高め勝敗の楽しさを味わいながら試合ができる。 ・踊りを通して楽しさや喜びを味わい、発表できる。 | |
| 体育理論 運動・スポーツの学び方 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・運動・スポーツの効果的な学び方を理解できる。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|---|-----|---|-------------------------|
| 保健体育・ 体育 | 3年 | 3 | 現代高等保健体育 改訂版 (大修館) | アクティブ・スポーツ2022 (大修館) |
| 科目の概要 と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列等集団行動を正しく機敏に行うことができるようにする。 ・各スポーツの基礎運動を理解する。 ・各スポーツのルールを理解しゲームを展開していく中で、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。 ・健康・安全に留意し、生涯にわたってスポーツライフを継続できるようにする。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 集団行動 体づくり運動 スポーツテスト 陸上競技 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・集合、整列等集団行動を正しく機敏に行う。 ・体を動かす楽しさや心地良さを味わうことができる。 ・自らの体力を知り、体づくり運動(体ほぐしの運動・体力を高める運動)ができる。 ・走、跳、投の技能を高める。 | |
| 選択 球技 (ゴール型) ハンドボール サッカー バスケットボール (ネット型) テニス バレーボール バドミントン 卓球 (ベースボール型) ソフトボール | | | <ul style="list-style-type: none"> ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、ゲームが展開できる。 | |
| 体育理論 豊かなスポーツライフの設計 | | | <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたってスポーツと豊かにかかわるためのスポーツライフの設計のしかたについて理解する。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---------------------|--|-----|---|------|
| 家庭科・ 家庭基礎 | 1年 | 2 | 家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍) | なし |
| 科目の概要 と目標 | <ul style="list-style-type: none"> 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図り、それらに係る技能を身に付けようとする。 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 家族社会との共生 | | | <ul style="list-style-type: none"> ライフステージごとの特徴を理解し、自分の将来とこれからの社会について考えることができるようにする。 | |
| 第1章 生涯を見通す | | | | |
| 第2章 人生をつくる | | | <ul style="list-style-type: none"> 変化する家族・家庭について学習し、私たちもその家族・地域・社会の一員であるという自覚を持つことができるようにする。 | |
| 第3章 子どもと共に育つ | | | <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期の心身の発達と生活、親の役割と保育、子どもを取り巻く社会環境、子育て支援について理解する。 乳幼児と適切に関わるための基礎的な技能を身につける。 子どもを生み育てることの意義について考えるとともに、子どもの健やかな発達のために親や家族及び地域や社会の果たす役割の重要性について考察する。 | |
| 第4章 超高齢社会を共に生きる | | | <ul style="list-style-type: none"> 高齢者、高齢社会への理解を深め、高齢期の課題について理解する。 | |
| 第5章 共に生き、共に支える | | | <ul style="list-style-type: none"> 社会保障制度や社会福祉についての重要性を理解し、将来に向けた課題に気づく。 | |
| ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 | | | <ul style="list-style-type: none"> 生活の中で、よりよく暮らすための解決方法を考える。 ひとりで取り組むだけでなく、協働することの意義を知る。 | |
| 生活の自立 | | | | |
| 第6章 食生活をつくる | | | <ul style="list-style-type: none"> ライフステージに応じた栄養の特徴や食品の栄養的特質、健康や環境に配慮した食生活について理解し、自己や家族の食生活の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 おいしさの構成要素や食品の調理上の性質、食品衛生について理解し、目的に応じた調理に必要な技能を身に付ける。 食の安全や食品の調理上の性質、食文化の継承を考慮した献立作成や調理計画、健康や環境に配慮した食生活について考察し、自己や家族の食事を工夫する。 | |
| 第7章 衣生活をつくる | | | <ul style="list-style-type: none"> ライフステージや目的に応じた被服の機能と着装について理解し、健康で快適な衣生活に必要な情報の収集ができる。 被服材料、被服構成及び被服衛生について理解し、被服の計画・管理に必要な技能を身に付ける。 被服の機能性や快適性について考察し、安全で健康や環境に配慮した被服の管理や目的に応じた着装を工夫する。 | |
| 第8章 住生活をつくる | | | <ul style="list-style-type: none"> ライフステージに応じた住生活の特徴、機能、快適性、防災などの安全や環境に配慮した住居生活や住環境を工夫する。 | |
| 第9章 経済生活を営む | | | <ul style="list-style-type: none"> 家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解すること。 消費者の権利と責任を自覚して行動できるように消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解する。 自立した消費者として、生活情報を活用し適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について考察する。 | |
| 第10章 持続可能な生活を営む | | | <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な社会を構築するために、持続可能な消費や生活について理解し、ライフスタイルを工夫する。 一人の主体者として、社会全体をよりよい方向に動かしていこうとする。 | |
| 生活の創造 | | | | |
| 第11章 これからの生活を創造する | | | <ul style="list-style-type: none"> 人生の目標を達成し、自分らしい生活が実現できるよう、各ライフステージの課題や生活資源、リスク管理について振り返りながら生活設計ができるようになる。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|---|---|--|------------|
| 外国語・英語 コミュニケーション I | 1年 | 4 | MY WAY English Communication I (三省堂) | エスト英文法 2 6 |
| 科目の概要 と目標 | さまざまなテーマの英文を題材にして、「読む」「聞く」「書く」「話す」の総合的な英語力を養うとともに、主体的・対話的で深い学びを通して、英語によるコミュニケーション能力を育成する。 | | | |
| 単元・学習内容 | | 到達度目標 | | |
| Lesson1 Proverbs Around the World | | 世界の有名なことわざや、国によってことわざに使われる動物の違いなどを学び、日本のことわざを外国人留学生に説明することができる。 | | |
| Lesson2 Iwago Mitsuaki An Animal Photographer | | 岩合さんが猫を撮影するコツや写真を通して伝えたいメッセージを学び、自分が選んだ写真について説明することができる。 | | |
| Lesson3 Sending Canned Mackerel to Space | | 高校生が宇宙食のためにサバ缶を作るというプロジェクトについて読み、自分が宇宙で食べたい日本の食べ物について紹介することができる。 | | |
| Lesson4 Messages from Winnie the Pooh | | 「クマのプーさん」の本の心あたたまるメッセージを読み、日本の物語の内容を紹介することができる。 | | |
| Lesson5 Endangered Languages | | 世界の消滅の危機にある言語について学び、自分が学びたい英語以外の言語について話すことができる。 | | |
| Lesson6 A Wheelchair Traveler | | 車いすで世界一周をした三代達也さんのブログを読み、海外からの旅行者に勧める日本の都市について紹介することができる。 | | |
| Lesson7 The Fugees | | 未来を切り開くきっかけになった難民の子供達のためのサッカーチームについて読み、在留外国人に対してできるボランティア活動を考えて紹介することができる。 | | |
| Lesson8 Avatar Robots | | 離れた場所においてもコミュニケーションを可能にしてくれる分身ロボットについての文章を読み、あつたらよいと思う未来の技術や製品について紹介することができる。 | | |
| Lesson9 Kadono Eiko and the Power of Imagination | | 「魔女の宅急便」の作者、角野栄子さんの想像力の源について書かれた文章を読み、自分の好きな話の登場人物を紹介することができる。 | | |
| Lesson10 SDGs – Sustainable Development Goals | | SDGs に関するさまざまな課題について書かれた文章を読み、自分たちにできることを考えて、クラスで発表することができる。 | | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|--|-----|--|---|
| 看護・ 基礎看護 (看護概論) | 1年 | 1 | 基礎看護 (実教出版) | 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) パワーアップ問題演習基礎看護学 (サイオ出版) |
| 科目の概要と目標 | 看護の意義と保健医療福祉における看護の役割を理解させると共に看護に関する知識と技術を習得させ、基礎的能力を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 第1章 看護の本質 第1節 看護の意義 第2節 看護の役割と機能 第5節 看護における倫理 | | | <p>看護は、豊かな人間愛と職業倫理並びに科学的な知識に基づいて、人々が健康を保持・増進・回復し、あるいは安らかな死を迎えることができるよう援助する専門職であることを理解する。</p> <p>看護の起源と専門職としての看護の歴史について学習し、現代の看護をより深く理解し、看護の向上に寄与する態度を身につける。</p> | |
| 第1章 看護の本質 第3節 看護の対象 | | | <p>看護の対象は、身体的・精神的・社会的側面をもつ統一体としての人間であり、看護を行う場合には、これらの各側面を総合的に把握する必要があることを理解する。</p> <p>人間が生活している家庭、地域、学校、職場などの様々な場において看護活動が行われていることや、それらの看護活動の特徴を学習させることにより、看護の役割を理解する。</p> | |
| 第1章 看護の本質 第4節 協働する専門職 | | | <p>保健・医療・福祉の看護活動の行われる場における看護職間や他部門及び他の医療関係職種との人間関係のあり方や連携の重要性について学習させることにより、看護組織・看護体制について理解する。</p> | |
| 第3章 日常生活の援助 第1節 日常生活の理解 第4節 排泄の援助 第6節 休息と睡眠 | | | <p>日常生活が人の健康や成長・発達に大きく関わりを持つことについて理解する。</p> <p>排泄や睡眠に関する基礎的知識を理解させるとともに、排泄障害や不眠への対応や援助に関する知識を習得する。</p> | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|---|-----|---|---|
| 看護・基礎看護 (基礎看護実習) | 1年 | 2 | 基礎看護 (実教出版) | 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) パワーアップ問題演習基礎看護学 (サイ出版) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> ・基礎看護実習における基礎的項目の知識と技術を身につけさせる。 ・実習する経験を通して看護観を育み、問題解決の能力を養う。 ・(臨床)看護を行うために必要な能力と態度を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 第3章 日常生活の援助 第2節 環境調整 第3 病床および周囲の生活環境の調整 第5節 活動・運動 第1 姿勢と体位 第2 安楽な体位と看護者の役割 第3 移動の援助と看護者の役割 | | | ベッドメイキング、リネン交換、体位変換、歩行、移動、移送介助についての基礎的な知識と技術を習得し、活用できるようにする。 | |
| 第3章 日常生活の援助 第3節 食事と栄養 第6 食事介助の実際 第7節 身体の清潔 第2 身体の清潔と援助 第8節 衣生活 第3 寝衣交換 | | | 配膳、食事介助についての基礎的な知識と技術を習得し、活用できるようにする。 身体の清潔援助として清拭、部分浴、洗髪・整容、口腔ケア、沐浴及び、寝衣交換の基礎的な知識と技術を習得し、活用できるようにする。 | |
| 第2章 看護の共通技術 第2節 感染予防 第2 感染を防止する方法 第3節 安全管理 第4節 フィジカルアセスメント 第3 身体計測と身体機能検査 第4章 診療に伴う援助 第1節 呼吸・循環・体温調整 第2 体温調整の方法 第5節 救急救命処置 第1 救急救命処置の意義と看護者の役割 | | | 安全を確保することは看護者にとって最も重要であり、正しい知識と基礎・基本に従った技術が医療事故を防ぐことを理解する。 衛生的手洗い、身体計測の基礎的な知識と技術を習得し、活用できるようにする。 巻法、包帯法など診療に伴う援助に関する基礎的な知識と技術を習得し、活用できるようにする。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|--|---|-----|--|--|
| 看護・ 基礎看護 (基礎看護実習) | 2年 | 4 | 基礎看護 (実教出版) | 看護学概論・基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) フィジカルアセスメントブック (医学書院) バラアップ 問題演習基礎看護学 (サイオ出版) |
| 科目の概要と目標 | <ul style="list-style-type: none"> 基礎看護実習における基礎的項目の知識と技術を身につけさせる。 実習する経験を通して看護観を育み、問題解決の能力を養う。 (臨床) 看護を行うために必要な能力と態度を養う。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 第2章 看護の共通技術 第4節 フィジカルアセスメント ・バイタルサイン、血圧測定 第2節 感染予防 ・感染予防の必要性 (講義) ・感染を防止する方法 第3章 日常生活と看護 第4節 排泄の援助 ・便尿器のあて方、オムツ交換 ・摘便、陰部洗浄、浣腸 ・導尿、留置カテーテル | | | 生体機能の観察方法としてのバイタルサイン、血圧測定の目的・方法・注意事項について理解し、技術を身につける。 感染を防止する無菌操作の目的・方法・注意事項について理解し、技術を身につける。 排泄に関する基礎的知識を理解すると共に、排泄や排泄障害に対する援助に関する目的・方法・注意事項について理解し、技術を身につける。 | |
| 第3章 日常生活と援助 第3節 食事と栄養 ・経管栄養 第2章 看護の共通技術 第4節 フィジカルアセスメント ・フィジカルイグザミネーションの基本手技 第4章 診療に伴う援助 第3節 創傷管理 第2節 与薬 ・与薬法について (講義) ・注射、静脈内注射、採血 ・点滴静脈注射、輸血 | | | 食事に関する基礎的知識を理解すると共に、経管栄養に関する目的・方法・注意事項について理解し、技術を身につける。 生体機能の観察方法としてのフィジカルアセスメントの目的・方法・注意事項について理解し、技術を身につける。 褥瘡の発生要因や誘因、好発部位を理解し、褥瘡の予防方法を身につける。 診療や与薬法に関する基礎的知識を理解すると共に、各項目に関する目的・方法・注意事項について理解し、技術を身につける。 | |
| 第4章 診療に伴う援助 第5節 救急救命処置 ・救急法 第1章 看護の本質 ・老人体験 第3章 日常生活の援助 第7節 身体の清潔 ・赤ちゃんの抱き方・寝衣交換 第4章 診療に伴う援助 第1節 呼吸・循環・体温調整 ・呼吸調整の方法 (吸入・吸引) 第2章 看護の共通技術 第1節 コミュニケーション | | | 救急処置の意義と看護の役割を理解し、一次救命処置の方法や災害時の傷病者の手当ておよび移送の技術を身につける。 老人体験を通して高齢者の加齢現象について理解するとともに、対象の健康状態に応じた援助技術を身につける。 赤ちゃんの抱き方・寝衣交換の基礎的な技術を身につける。 診療や吸入・吸引法に関する基礎的知識を理解すると共に、各項目に関する目的・方法・注意事項について理解し、技術を身につける。 患者との人間関係を形成するコミュニケーションについて理解し、その技術を身につける。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|--|-----|---|---|
| 看護・ 看護臨地実習 | 3年 | 10 | 基礎看護 (出版社:実教出版) | 系統看護学講座基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院) 看護診断の看護過程ガイド ゴードンの機能的健康パターンに基づく アセスメント (中央法規) パワーアップ問題演習基礎看護学 (サイオ出版) 疾患別看護過程の展開 (学研) |
| 科目の概要 と目標 | 看護に関する各科目において習得した知識と技術を臨床の場で活用し、経験を通して看護観を育み、問題解決の能力を養うとともに、看護の実践力と態度を身につける。 | | | |
| 単元・学習内容 | | | 到達度目標 | |
| 小児看護・基礎看護Ⅰ臨地実習 ・小児の成長発達や生活行動の特徴の理解 ・日常生活の援助 [保育所 (2単位)] | | | 乳幼児の成長発達について理解する。 乳幼児の発育発達を考慮した日常生活の援助方法を理解する。 | |
| 基礎看護Ⅱ臨地実習 ・医療施設の機能と看護の役割 ・患者の理解 ・看護におけるコミュニケーション ・日常生活の援助 ・看護の展開 [病院 (3単位)] | | | 看護場面におけるコミュニケーションの重要性を実感し、患者の訴えをよく聞くことができる。 入院や疾病に伴う日常生活の変化を把握し、基本的欲求の充足状況に応じた日常生活援助ができる。 患者の訴えや徴候などの状態から、アセスメントし看護過程を展開する。 | |
| 成人看護臨地実習 [病院 (3単位)] | | | 患者の訴えや徴候などの状態から、アセスメントし看護過程を展開する。 患者が有する諸問題に対して、看護援助の一連の過程を体験することにより、問題解決の能力を養うとともに、臨床看護を行うために必要な能力と態度を身につける。 | |
| 老年看護臨地実習 [特別養護老人ホーム (2単位)] | | | 高齢者の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、加齢を考慮した日常生活援助方法を理解する。 | |

シラバス (看護科)

| 教科・科目 | 対象学年 | 単位数 | 教科書 | 使用教材 |
|---|---|-----|---------------|------|
| 看護・看護情報 | 2年 | 2 | 最新情報 I (実教出版) | なし |
| 科目の概要と目標 | 社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報の活用に関する知識と技術を習得させ、看護の分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。 | | | |
| 単元・学習内容 | 到達度目標 | | | |
| オリエンテーション | <ul style="list-style-type: none"> ・中学校までの学習、経験等既習内容の調査を行う。 ・コンピュータの起動や終了の方法、OSの基本操作について練習する。 ・ファイルの保存、読み込み、共有フォルダの利用方法について理解する。 ・コンピュータ教室の使い方を理解する。 | | | |
| 第1章 情報社会と私たち 1 情報社会 2 情報社会の法規と権利 3 情報技術が築く新しい社会 | <ul style="list-style-type: none"> ・情報社会の現状について理解する。 ・情報の特性について理解する。 ・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ・知的財産権について理解する。 ・他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 | | | |
| 第2章 メディアと情報デザイン 1 メディアとコミュニケーション 2 情報デザイン 3 情報デザインの実践 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会の中で活用されている情報技術について理解する。 ・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法について考える。 ・メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。 ・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。 ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。 ・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。 ・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。 ・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。 ・Web ページ作成の方法について理解する。 | | | |
| 第3章 システムとデジタル化 1 情報システムの構成 2 情報のデジタル化 | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。 ・ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。 ・アナログとデジタルの違いについて理解する。 ・2進数と情報量の関係について理解する。 ・コンピュータの演算の仕組みを理解する。 ・数値や文字をデジタル化する方法を理解する。 | | | |
| 第4章 ネットワークとセキュリティ 1 情報通信ネットワーク 2 情報セキュリティ | <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。 ・音声をデジタルで表現する方法について理解する。 ・静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。 ・情報のデータ量を小さくする方法について理解する。 ・情報通信ネットワークの構成について理解する。 ・情報通信ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。 ・通信ネットワークの構成について理解する。 ・Web ページとメールの仕組みについて理解する。 ・ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。 ・脅威に対する様々な安全対策について理解する。 ・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。 | | | |
| 第5章 問題解決とその方法 1 問題解決 2 データの活用 3 モデル化 4 シミュレーション | <ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の手順について理解する。 ・問題の発見の方法について理解する。 ・問題を明確化する方法について理解する。 ・解決案を検討したり、整理・分析したりする方法について理解する。 ・合意形成を目指した解決案を決定する方法について理解する。 ・実行した解決案を評価する方法について理解する。 ・データを収集したり、整理したりする方法について理解する ・表計算ソフトの活用方法について理解する。 ・データを適切なグラフや図に表現する方法を理解する。 ・データ分析の手法について理解する。 ・データベースの種類とその仕組みについて理解する。 ・モデル化の意味について理解する。 ・モデル化の分類について理解する。 ・モデル化する手順と方法を理解し、様々なモデルを作成する。 ・シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。 ・問題解決のためにシミュレーションを活用する。 | | | |
| 第6章 アルゴリズムとプログラミング 1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実践 3 探索と整列のプログラム | <ul style="list-style-type: none"> ・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。 ・プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。 ・変数を使用したプログラムを作成する。 ・関数を使用したプログラムを作成する。 ・多くのデータから目的のデータを採り出すプログラムを作成する。 | | | |